

知事記者会見の概要

日 時：令和4年4月22日(金) 16:30～16:46

場 所：502会議室

出席記者：8名、テレビカメラ5台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から1件の発表があった。

その後、フリー質問があり、知事が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

発表事項

- (1) 新型コロナウイルス感染症への対応について

フリー質問

- (1) 発表事項に関連して

<幹事社：山新・時事・SAY>

☆報告事項

知事

先ほど開催しました「危機対策本部員会議」（山形県新型コロナウイルス感染症に係る危機対策本部第52回本部員会議）におきまして、今後の感染拡大防止に向けた取組みなどについて、協議・決定をいたしました。

本県の感染状況ですが、オミクロンBA.1系統よりも感染力が強いBA.2系統への置き換わりが相当進んでおり、1日の新規感染者数も100人台、200人台の日が続くなど、依然として高止まりの状況にあり、予断を許さない状況にあります。

一方で、重症者は少なく、自宅・宿泊療養が可能な軽症者が多いことや、3回目のワクチン接種が順調に進んでいることなどから、病床使用率は10%台で推移し、ただちに医療提供体制がひっ迫するおそれは少ない状況にあると捉えております。今後当面の間は、最大限に警戒をしながら、可能な限り日常生活を取り戻す取組みが重要と考えております。

このため、来週から始まる大型連休につきましても、過去2年のように県境をまたぐ帰省や旅行の自粛などの行動制限は行わず、陽性者の早期発見、3回目のワクチン接種の加速、そして基本的な感染防止対策のさらなる徹底などに取り組むことといたしました。

具体的に申し上げますと、まず一つとして、無料PCR等検査の期間延長をいたしました。また、高齢者施設・障がい者施設、保育施設、学校へ抗原定性検査キットを配布して陽性者の早期発見につなげてまいります。

二つとしまして、成人式やプロスポーツ会場における若い世代をターゲットとした啓発活動や、企業等と連携した情報発信による3回目のワクチン接種を加速してまいります。

三つとしまして、空港や駅などでの啓発活動や、市町村長との共同メッセージによる基本的な感染防止対策のさらなる徹底の注意喚起をいたします。

こういったことに取り組んでまいります。

また、県立学校では、大型連休中の生活に関する注意喚起、県外で部活動を行う場合の事前・事後のPCR等検査の活用、修学旅行、宿泊を伴う学校行事及び校外学習での目的地の感染状況の把握などに取り組むこととしております。小中学校や私立高校の皆様におきましても、県教育委員会からの要請の趣旨を御理解いただき、感染防止対策に御協力いただきますようお願いをいたします。

感染防止対策と経済回復の両立を図るためには、少しでも新規感染者数を減らして医療提供体制がひっ迫するリスクを下げるのが重要でありますので、県民の皆様にはウィズコロナ時代の基本的なエチケットとして、改めて不織布マスクの着用、こまめな手洗い、消毒、密閉・密集・密接の全てを避けるゼロ密、換気の励行など、基本的な感染防止対策を徹底してくださるようお願いいたします。

また、ワクチン接種が感染防止対策の要でありますので、各年代とも希望される皆様にはできるだけ早く3回目の接種を受けていただくようお願いをいたします。

県民の皆様、事業者、市町村の皆様、一丸となってこのコロナの難局を乗り越えてまいり

ましよう。私からは以上です。

☆フリー質問

記者

山形新聞の田中です。

コロナ禍3年目に入ってですね、ゴールデンウィーク期間中の県外との往来の自粛の要請、これを行わないのは今回が初めてかと思えます。1年目は全国的な緊急事態宣言、去年は山形市、寒河江市に出された県独自の緊急事態宣言がありました。

去年、一昨年と比べてですね、BA.2、オミクロン、こういったものによる感染の拡大というものが懸念もありますけども、今回、ゴールデンウィーク期間中のその往来の自粛を見送り、その両立を目指される考えとか、あと、初めて取り組むことでもありますので、知事が懸念されていることとかですね、その懸念を払拭するためにこういったものを強化していくんだというものが特にありましたら教えていただければ、併せてお願いいたします。

知事

はい。1年目、2年目はですね、県境をまたぐことはお控え下さいといったようなお願いをしたと思いますが、今回はそのようなお願いはしないで、ただ、しっかりと感染防止対策を行ってくださいということと、それから検査ですね、事前・事後にきちんと検査をして早期発見、早期療養に努めていただくということで、感染防止拡大を防ぐということに力点を置いているところです。

これはやはり、1年目は本当にマスクもしていない中で、防御態勢がまったくわからない中でゴールデンウィークを迎えるという状況でありました。

思い出してみますと、(令和2年)3月31日に本県で最初の、1例目の方が感染確認されて、それから倍々という感じでどんどんと感染者が増えていきまして、全員入院というような状況であり、ゴールデンウィークまでにもう病床がもたないと、満杯になってもたなくなってしまうというような状況で、ひっ迫しておりましたので、何としても人流を止める必要があるというふうに考えて、県境での検温といったことに取り組んだ記憶がございます。

2年目はですね、新しい生活というようなことでマスク生活ですね、それから、フィジカルディスタンス、距離をとるとか、様々な密集・密接・密閉を防ぐというような、その防御策といったことを専門家の皆様方からきちんと教示いただいて、そういったことに取り組んだ、但し、やっぱり重症者が多かったと思います、この第6波に比べますとね。ですから、やっぱり医療提供体制がひっ迫しないようにということで、やはり各県と連携して、「お互いに県境を跨がないようにしましょう」といった呼びかけをしたという記憶がございます。

そして今回でございますけれども、この第6波というのは、本当に感染力が大変強く、(感染)スピードが速く感染人数が大変多いんですけれども、重症者が少なく、医療のひ

っ迫というところには、そういう恐れは、今、ないものと捉えているところであります。そこがやっぱり一つの肝になるかなと思っております。

ただ、感染を防止するという意味では、人流を止めるというのが、一番効果があるとは思っておりますけれども、そういうことをすることによってですね、様々な社会機能が止まってしまうリスクが多いと思います。すごい感染者数であります。全国的にほとんどの県が3桁、4桁ということでありまして、なかなかそれが減少していかない。それで無症状や軽症者の方が多い。そしてワクチンという、要の武器と言いますかね、ワクチン接種ということが進んできておりますので、感染拡大防止等対策とワクチン接種、この二つをしっかりと講じながら、できる限り日常生活を取り戻す、そういう期間にしていきたいというふうに思ったところです。今回お示した対策の中で、ビジネスの方々はもちろん、お出かけになる前、またお帰りになってからも検査をしている方が多いと聞いておりますし、それから観光もですね、旅のエチケットというようなもので、しっかりと対策を講じておられます。

今回本県では、高校生の部活ということで県外との交流試合といったことについて議論をしましたが、行動制限をするよりも県外に、部活に出かける前にPCR検査や抗原定性検査キットで検査をして、陰性であることを確認して出かけて行って、試合をして帰ってきてからまた検査をして、もし陽性が出たら、早急にですね、早期発見ということで療養していただくというようなことで感染拡大を防ぐため、県から検査キットを配付し、また無料PCR等検査も5月末日まで延長しますので、そういった手立てを講じながら活動をしていただくということといたしました。そういったことをしっかりと講じながら活動していただく期間になればというふうに思っています。

記者

ありがとうございます。もう一つ関連でですね、山形の観光というとやはり、どうしても6月のさくらんぼであるとかですね、あと夏のシーズン、今年祭りがどうなるかはさておきですけども、8月には、「山の日全国大会」も控えております。そうした意味では、日常を取り戻す感染抑止と経済活動、人流との両立を目指す上では、今回のゴールデンウィークの取組みであるとか成果というのは、一つの試金石になるのかと思います。

その辺りをどう捉えてですね、今後の対策・対応に、知事としてはどのように反映させる、教訓として得ていくというお考えなのかを合わせて教えていただければと思います。

知事

わかりました。ゴールデンウィークの対策ということで今日は、皆様に公表させていただきましたが、その後ということについてはですね、またしっかり検討していきたいと思っております。このゴールデンウィークの結果と言いますか、そういうこともしっかりと踏まえながらですね、それで全国の様子・状況といったものもしっかりと考

えながら、考慮しながら、また医療専門家の皆様のお話も伺いながら検討していきたいというふうに思っています。

やはり、感染拡大防止と経済活動、あるいは、生徒さんの部活も活動に入りますけれども、そういったことを両立していくというのがですね、そういう段階にもう来ているかなという認識でおります。ただ、もしかして重症者がたくさん出るような変異株、そういったことがまた新たに現れたら、それはまたそれでしっかりと対処しなければならない、県民の皆様のお命と健康を守るというのは最重要でありますので、その時にはまた、しっかり議論をして対策をしていきたいと思っておりますけれども、現在のような状況でありましたらば、さくらんぼの時期でありましたり、また「山の日全国大会」ございますけれども、どのように感染防止対策をして、そして、両立できるのかといったことにですね、要するに、中止するといったことだけではなくて、いかに活動を、イベントをしっかりと行うための手立て、感染防止対策といったことに、しっかりとできる限りの力を注いでいければというふうに思っております。